

平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）
「小児慢性特定疾患の登録・管理・解析・情報提供に関する研究」分担研究報告書

小児慢性特定疾患治療研究事業システムに関する研究 1 －登録管理ソフト（Windows7 版）の開発について－

研究分担者 齊藤 進 日本子ども家庭総合研究所 母子保健研究部主任研究員

研究要旨：小児慢性特定疾患の登録・管理システムにより収集しているデータの精度向上を図るため、現在のコンピュータ環境に適合した登録管理ソフトを開発した。Windows7、Vista、XP で稼働するソフトが完成し、実施主体に配布可能となった。今回開発したソフトには、簡単な集計機能を付け、より利便性が向上した。

キーワード：小児慢性疾患、登録管理システム、医療意見書、Windows 7

研究協力者：

加藤忠明（国立成育医療研究センター成育政策科学研究部長）

陶山 泰（有限会社スクゥ代表取締役）

小山 修（日本子ども家庭総合研究所客員研究員）

顧 艶紅（国立成育医療研究センター成育政策科学研究部上級研究員）

掛江直子（国立成育医療研究センター成育保健政策科学研究室長）

竹原健二（国立成育医療研究センター成育政策科学研究部研究員）

中原浩司（ドットウェア株式会社）

年度に作成した小慢ソフト Ver.5 の仕様書に基づき、小慢ソフトを開発することを目的とした。

B. 研究方法

小慢ソフト Ver.5 の仕様書に基づき、ソフトの基本設計書、計算書等の詳細をもとにソフト開発し、作成したソフトの動作検証を実施する。また、ソフトにあわせてインストール、操作の各マニュアルを作成する。動作検証、マニュアル等の内容については、β 版により研究者が実際に操作し、不具合を検討し改善に努めた。

C. 研究結果

1. 小慢ソフト Ver.5 の基本設計

前年度までの研究結果および仕様書に基づいて Windows7 対応の Ver.5 の開発を実施した。ソフトの基本設計書およびデータベースの定義書は紙幅の関係で省略した。

2. 小慢ソフト Ver.5 の特徴

小慢ソフト Ver.5 の特徴として、Ver.5 で

A. 研究目的

平成 18 年度から新しい「小児慢性特定疾患の登録・管理システム（以下、小慢ソフト Ver.4）」を開発配布し、より精度の高いデータの収集を進めるため、実施主体（都道府県、指定都市、中核市）のサポートを行っている。しかし、パソコンのオペレーティング・システムが Windows 7 に移行したため、平成 22

追加・変更された機能は次のとおりである。

- 1) 地方版と中央版（入出力等に違いがある）を明確に分けている
 - 2) データベースが ACCESS から本システム独自のデータベース（固定長形式）に変更した
 - 3) 登録メニュー画面は廃止→一覧画面（登録済み各医療意見書を年度別に一覧表示）から選択して作業する
 - 4) 医療意見書の連続修正機能は廃止し、一覧画面から行う。従って、連続での修正は不可とした
 - 5) データ出力、読込、削除の機能は、それぞれ一括で処理可能な専用画面を追加した
 - 6) 医療機関名・所在地の入力補助（履歴記録方式）機能を追加した
 - 7) 告示疾患マスターを追加した（告示疾患コード別集計が可能となった）
 - 8) Ver.4 のバックアップファイル（MDB 形式）はそのままでは使用できなくなった
 - 9) Ver.5 への移行は、Ver.4 の出力機能を使用（CSV ファイル出力）し、Ver.5 の読込機能でデータをインポートする
 - 10) 集計機能を追加し、次の集計が可能となった
 - ICD コード別
 - 部位・ICD コード別
 - 告示疾患コード別
 - クロス集計（疾患群、ICD コード、告示疾患コード、性別、年齢、実施主体、保健所）
 - 11) 表示中の集計表を CSV 形式のファイルで出力可能とし、CSV ファイルをエクセルで表示、加工、印刷ができる
3. 操作説明書（マニュアル）について
マニュアル類については、中央版、地方版ともにインストール、操作、リカバリーの3種類を作成した。Ver.4 以上に丁寧な説明や用語の統一を図ったが、どのレベルまで説明

を記載するか、議論となったが、操作マニュアルはやはりソフトの操作に必要な最低限の内容がよいと考えられる。

しかし、より精度の高い電子データの収集には小慢事業とソフトの操作を加味したハンドブックの作成が重要と思われるので、次年度以降に作成を検討する必要がある。

D. 考察

作成した小慢ソフト Ver.5 は、Ver.4 に比べ利便性が向上し、より精度の高い電子データの収集に貢献できると考えられる。しかし、小慢事業の体系や内容にソフトの操作を追加したハンドブックの必要性が示唆された。

【参考文献】

- 1) 斉藤進、加藤忠明、藤田正則：小児慢性特定疾患登録管理用ソフトの改訂、厚生労働省厚生科学研究「小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価に関する研究」平成 13 年度研究報告書：233～234、2002
- 2) 斉藤進、加藤忠明、藤田正則：小児慢性特定疾患登録管理用ソフトの改訂について、厚生労働省厚生労働科学研究「小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価に関する研究」平成 14 年度研究報告書：192～193、2003
- 3) 斉藤進、加藤忠明、陶山泰、藤田正則：小児慢性特定疾患登録管理用ソフトの開発について、厚生労働省厚生労働科学研究「小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価に関する研究」平成 15 年度研究報告書：148～151、2004
- 4) 斉藤進、加藤忠明、陶山泰、藤田正則：小児慢性特定疾患登録管理用ソフトの開発方針と利用実態、厚生労働省厚生労働科学研究「小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関

- する研究」平成 16 年度研究報告書：134～148、2005
- 5) 齊藤進、加藤忠明、陶山泰、藤田正則：小児慢性特定疾患登録管理用ソフトの開発、厚生労働省厚生労働科学研究「小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究」平成 17 年度研究報告書：142～144、2006
- 6) 齊藤進、加藤忠明、藤田正則、陶山泰、小山修：小児慢性特定疾患登録管理用システムの課題、厚生労働省厚生労働科学研究「小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究」平成 18 年度研究報告書：215～219、2007
- 7) 齊藤進、加藤忠明、藤田正則、陶山泰、小山修：小児慢性特定疾患治療研究事業システムに関する研究－登録・管理ソフトの現状と課題－、厚生労働省厚生労働科学研究「法制化後の小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究」平成 19 年度研究報告書：186～187、2008
- 8) 齊藤進、加藤忠明、陶山泰、小山修：小児慢性特定疾患治療研究事業システムに関する研究－登録・管理ソフトの開発方針（医療意見書作成システムの検討）－、厚生労働省厚生労働科学研究「法制化後の小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究」平成 20 年度研究報告書：193～197、2009
- 9) 齊藤進、加藤忠明、陶山泰、小山修：小児慢性特定疾患治療研究事業システムに関する研究－登録・管理ソフトの開発（医療意見書作成システムの検討）－、厚生労働科学研究「法制化後の小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究」平成 21 年度研究報告書；pp.175－176、2010
- 10) 齊藤進、加藤忠明、陶山泰、小山修：小児慢性特定疾患治療研究事業システムに関する研究－登録・管理ソフトの開発（医療意見書作成システムの検討）－、厚生労働科学研究「法制化後の小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究」平成 19 年度～平成 21 年度総合研究報告書；pp.190－193、2010
- 11) 齊藤進、加藤忠明、陶山泰、小山修：小児慢性特定疾患治療研究事業システムに関する研究 1－登録管理ソフト（Windows7 版）の開発について、厚生労働科学研究「小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・解析・情報提供に関する研究」平成 22 年度研究報告書；pp.211--222、2011